

JPP-NET 薬剤情報バンク 更なる情報充実に向けて 農薬工業会会員説明会にて薬剤情報バンクを説明

支援事業部

平成30年3月6日、農薬工業会主催の会員説明会～防除基準作成のための都道府県等への情報提供～が、全水道会館（東京都文京区）で開催され、当協会からも薬剤情報バンクの概要と運用状況について説明した。38社、83名が参集した。

開会に先立ち阪本専務理事は、「農林水産省は資材費低減の一環として、県が防除指針を編成する際に農薬登録データを活用することにより、追加データの要求を減らす取り組みを行っている。この会員説明会で、農林水産省、関連団体から経緯の説明や情報の見せ方について説明がある。会員説明会の内容を各社持ち帰り、情報提供の協力をお願いする」と挨拶した。

挨拶の後、農林水産省消費・安全局植物防疫課の白石課長補佐が、「農薬登録試験データの情報提供体制について」の題で、防除基準作成に係る見直しの経緯、平成30年防除基準でのデータベースの活用状況を説明した。今後、農薬登録試験データを共有・活用する体制を整備する、データベースに掲載する内容について県からの要望も聞き取り、農薬登録試験データのみならず、薬剤に関する情報の要望が出されている、データ提供を改めてお願いすると話された。

次いで、日本植物防疫協会、日本植物調節剤研究協会が、情報提供を行っているシステムと内容について説明した。当協会からは次の内容で説明した。

JPP-NET 内に薬剤情報バンクを構築し、薬剤の効果・薬害については“委託試験成績概評”にて平成12年以降の成績概評ならび平成23年以降の試験成績書を提供、薬剤の特性等につい

ては“薬剤プロファイル”にて雑誌「植物防疫」に掲載した“新農薬の紹介”、「植防コメント」に掲載した“新剤の防除効果”、農薬メーカーから提供された技術資料や混用事例、HPの製品情報等とともに問い合わせ先も掲載している。また、利用者を制限することにより未登録薬剤の情報も提供できるようにしている。薬剤情報バンクへのアクセス数は、稼働を開始した平成29年9月から30年1月までに約1500回

(1アクセスは1日)となっており、県の防除指針作成のためにアクセスしていると思われる。しかし、残念ながら情報提供に関し協力して頂けた農薬メーカーは少ない現状となっている。

県植防関係者が試験成績のみならず農薬の特性を知るためにには、技術資料等の情報は必要であることから、農薬メーカーに対し協力をお願いした。



【会員説明会の様子】